

高齢者ドライバーの問題

株式会社メディヴァ
代表取締役 大石佳能子

高齢者の運転による事故が社会的課題に

ケース1. 認知症疑いなら医師の診断義務付け 改正道交法成立 免許取り消し急増も

https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG11H40_R10C15A6CR8000/

ケース2. 高齢者ドライバーの事故多発「免許の自主返納」運転の可否を決める判断基準とは

<http://www.jprime.jp/articles/-/11255>

ケース3. 免許返納、不慣れなバスに戸惑い

<http://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/629464>

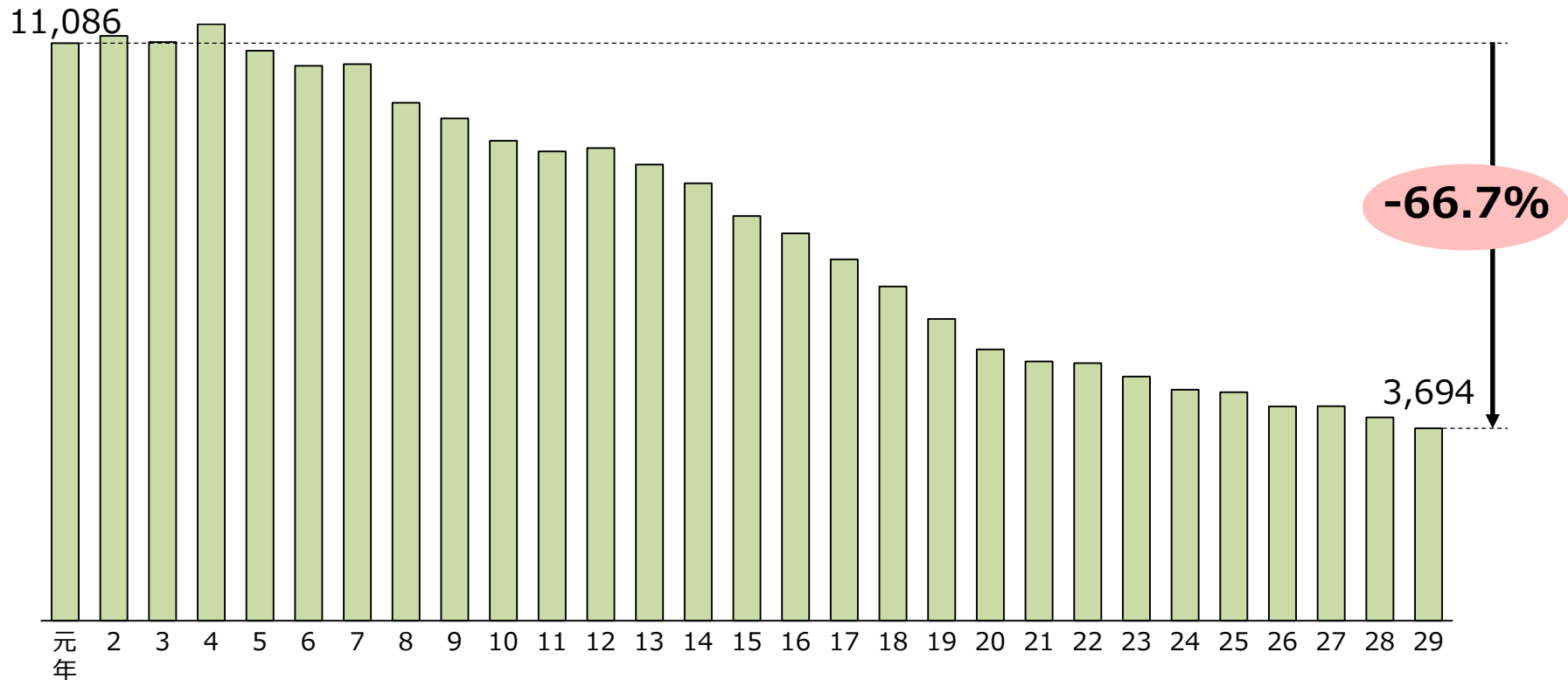
ケース4. 認知症事故の賠償支援 10月導入 久留米市が保険料負担 福岡

<https://www.sankei.com/region/news/180703/rgn1807030056-n1.html>

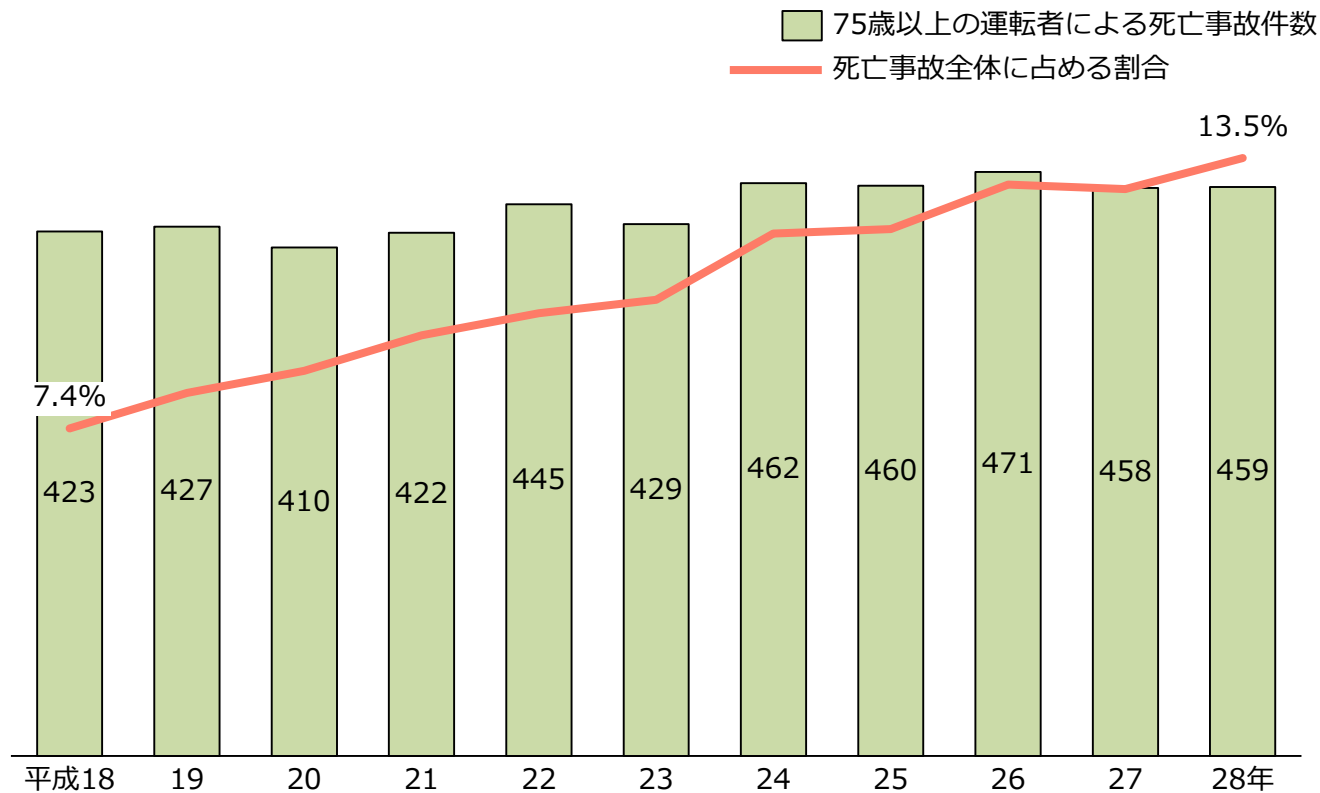
ケース5. 大手損保初『精神疾患・認知症などのための保険』がスタート！ 事件・事故などのトラブルから守る新しい保険

<https://www.sankei.com/economy/news/180724/prl1807240146-n1.html>

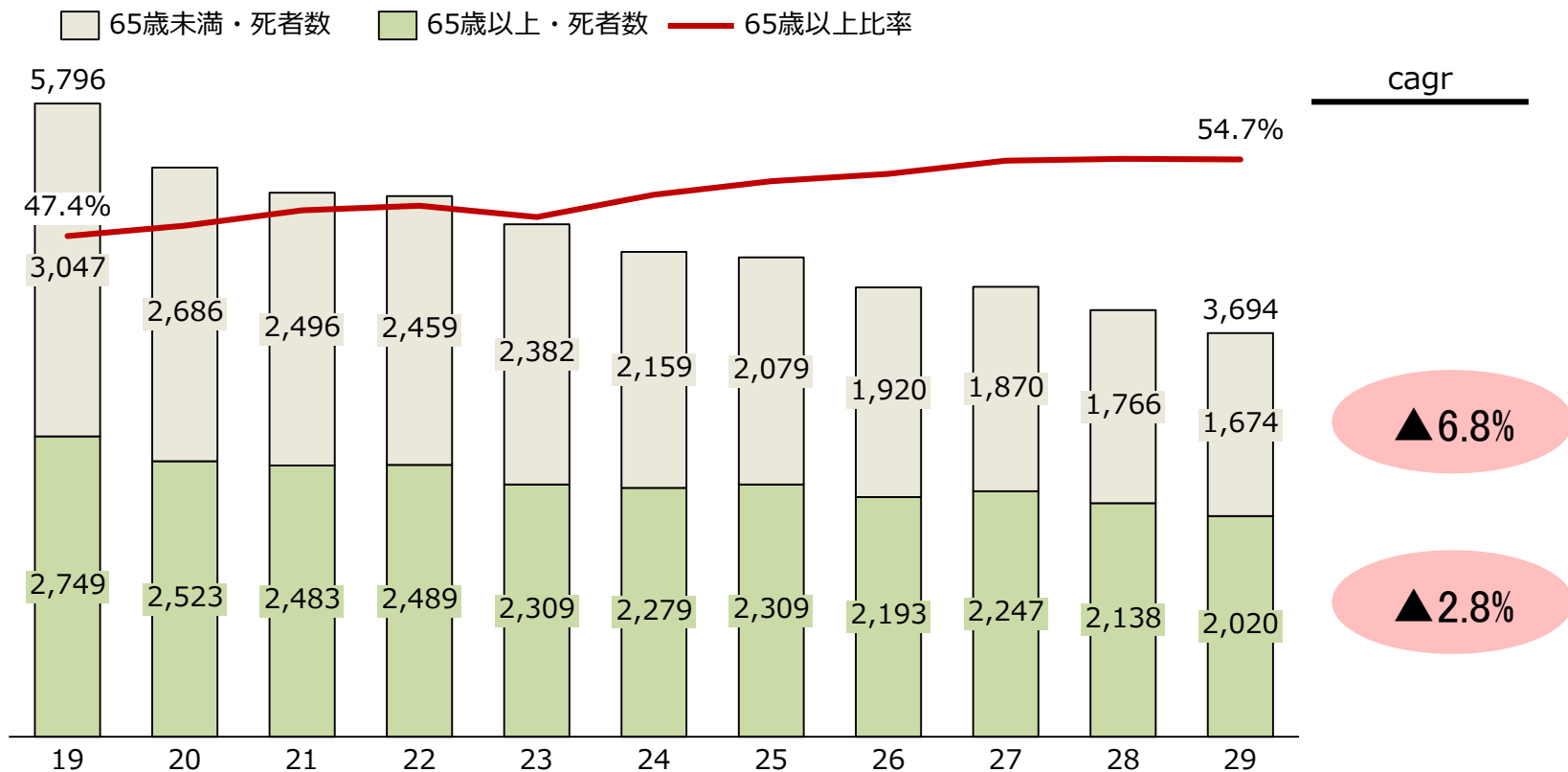
日本の交通事故死者数は、この30年で約7割減少



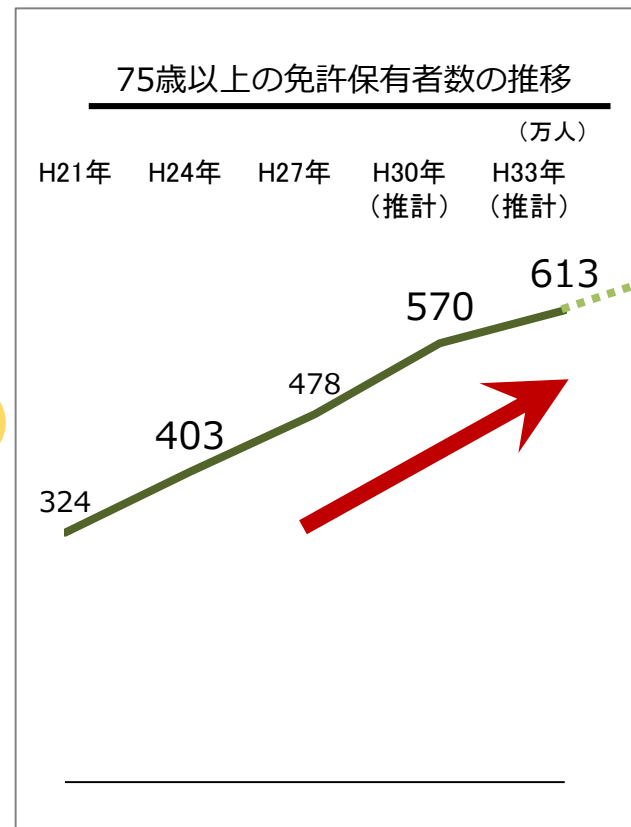
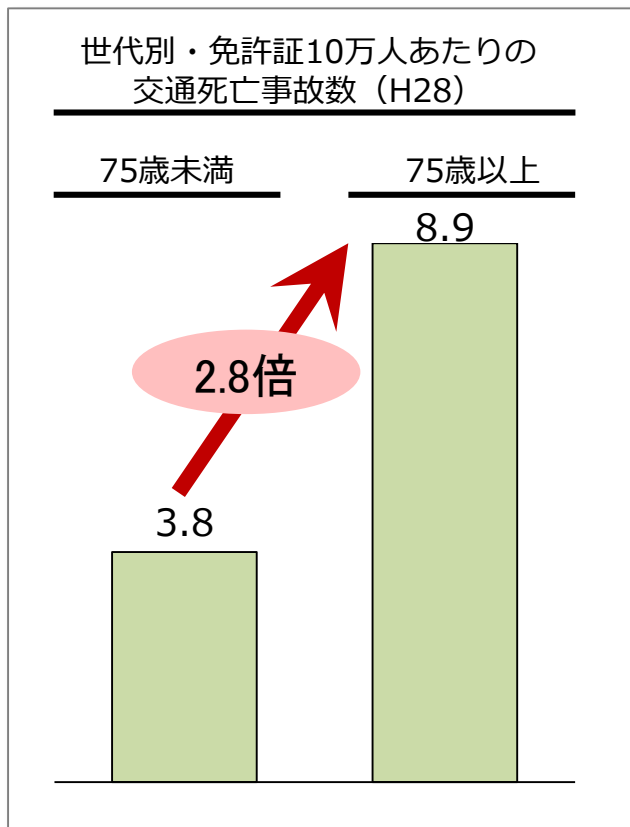
75歳以上による死亡事故は減少しておらず、死亡事故割合は増加



交通事故死者数に占める65歳以上の割合は上昇傾向

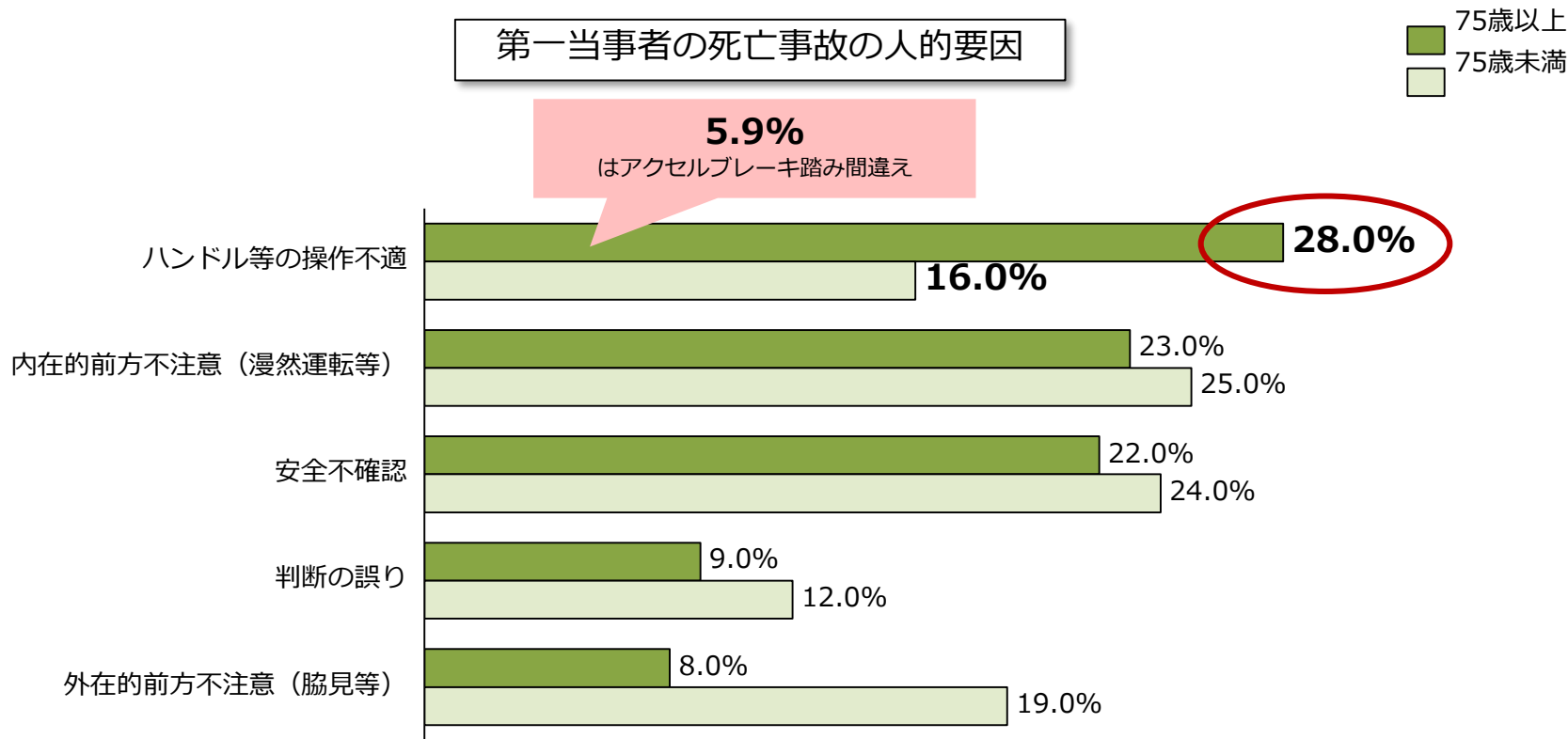


75歳以上は、約3倍の交通死亡事故を起こす。免許保有者数は今後増加



×

75歳以上による死亡事故では、ハンドル・ブレーキの操作ミスが目立つ

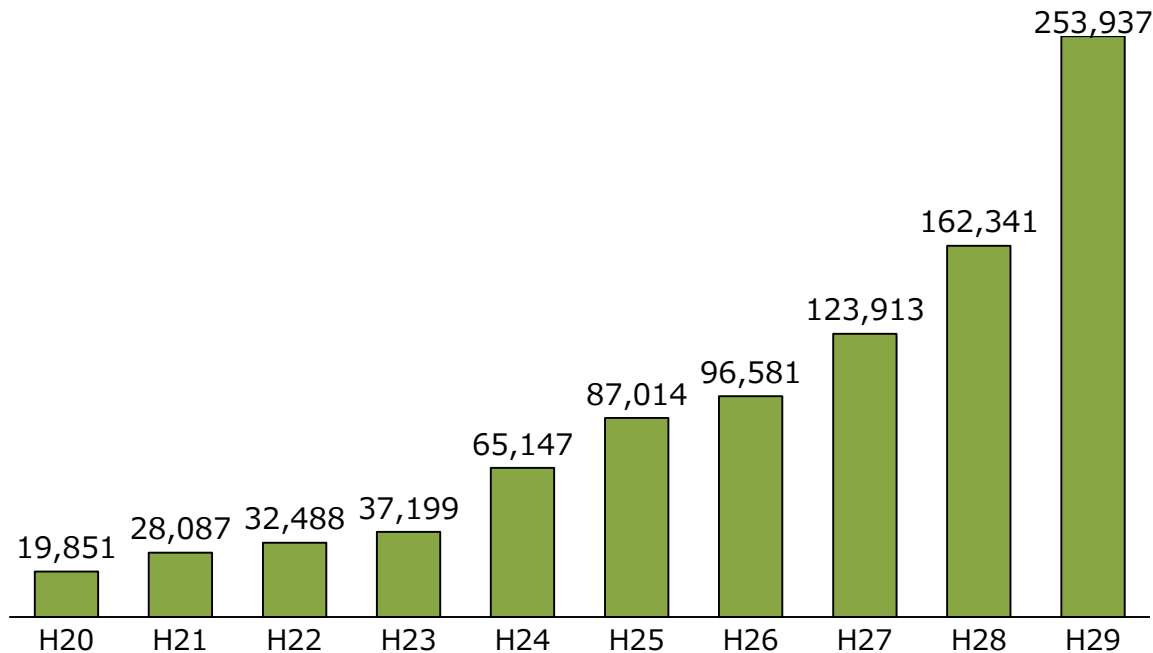


警察庁資料に基づいて内閣府が作成し、下記URLに記載された情報をメディアウアで加工
(http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h29kou_haku/zenbun/genkyo/feature/feature_01.html)。75歳以上 n=459、75歳未満 n=2,951

75歳以上の運転免許返納数は急増しているが、まだ5%程度

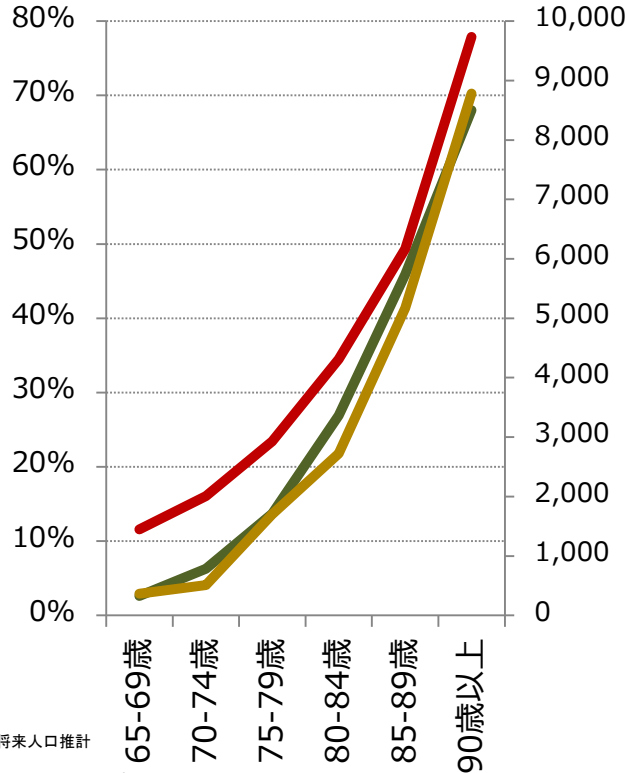
75歳以上の運転免許返納数の推移

返納率
5.0%



高齢になると、様々な心身の不調が発生する

年齢階層別の認知症有病率



運転中の目の不調 (全年齢)



- ・疲れ目 77.1%
- ・かすみ目 47.2%
- ・ピントが合いづらい 43.9%
- ・まぶしさ 38.5%
- ・渇き目 27.9%
- ・目のかゆみ、異物感、、、

(参天製薬調査)



- 要介護認定率
- 認知症有病率
- 入院受療率

出所: 要介護認定率: 社会保障人口問題研究所将来人口推計

介護給付費実態調査(H24)

認知症有病率: 筑波大附属病院「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(H24)

入院受療率: 患者調査(H23)

運転技術低下の要因

加齢の影響と運転上の課題（例）

認知機能の 低下 (認知症)

認知症により、自分がどこにいて、どこに向かっているのか？
分からなくなり、時としてパニックを起こす

反射神経の 低下

運転中に危険を察知しても、ハンドル操作やブレーキ操作に時間がかかる

感覚器の 低下

目や耳の機能低下により、周囲の危険の認識が遅れる

筋力の低下

いざというときに、強くブレーキを踏みこみ切れない

要因により対策
は異なる？

高齢者ドライバーに関する問題意識

問題認識

高齢者ドライバーの事故リスクを減らすために、ある程度は免許証の更新条件を制約することも必要。

一方、**高齢者から移動手段を奪い**、家に孤立させてしまうことは、生活の利便性を失うだけでなく、社会からの孤立や更なる心身機能の低下・健康寿命の短縮を引き起こしかねない。

「高齢者が最後まで可能な限り自立して、社会参加しながら、幸せに過ごす」という観点から、高齢者ドライバーの問題、高齢者の移動の問題をどう捉えるか？

政策・テクノロジー・コミュニティによる解決はないか？

